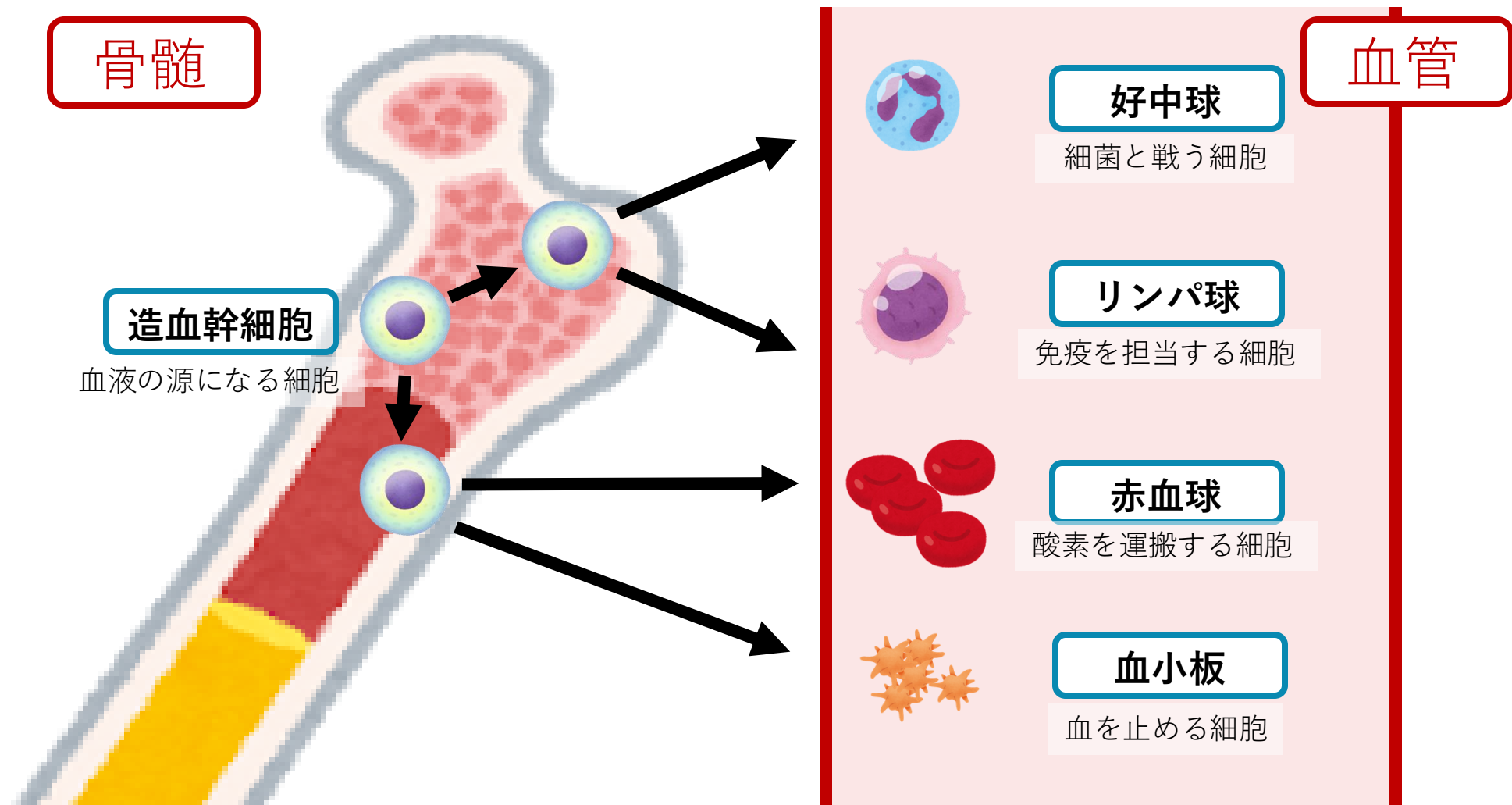
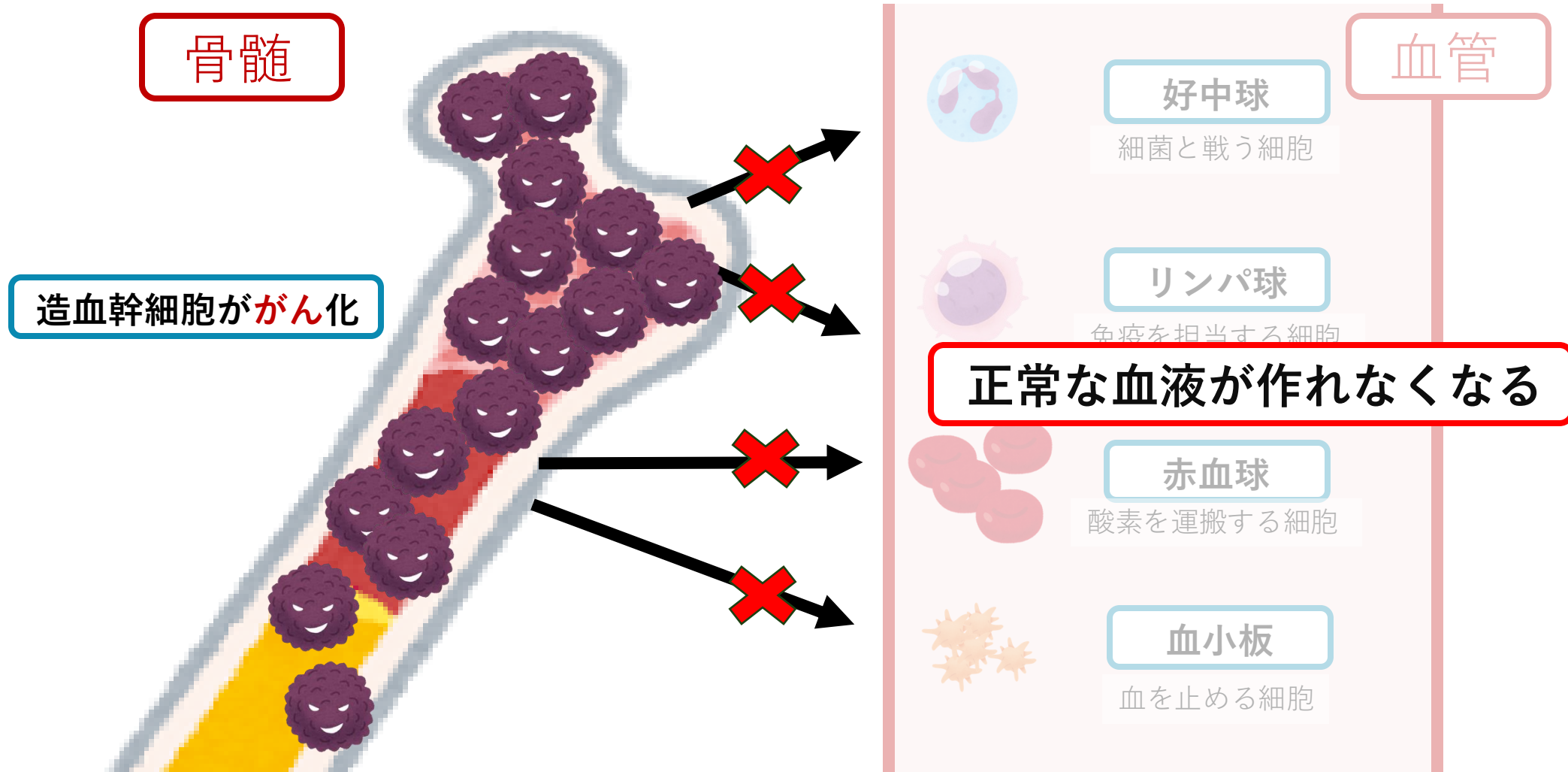


急性白血病

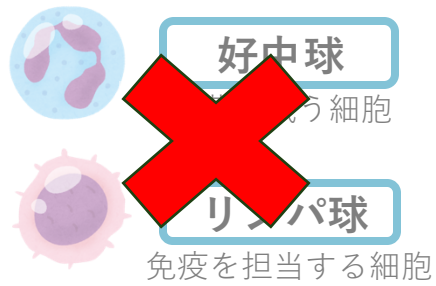
血液の作られるしくみ



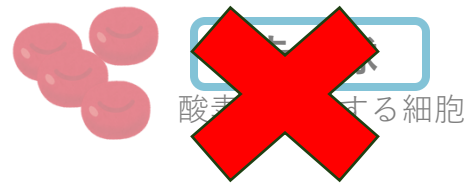
白血病とは…



白血病の主な症状



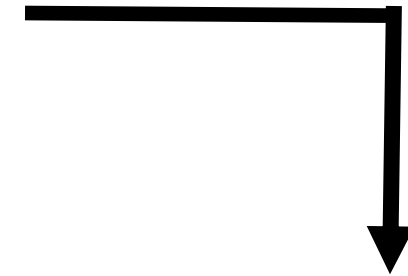
感染・発熱



貧血



出血・あざ

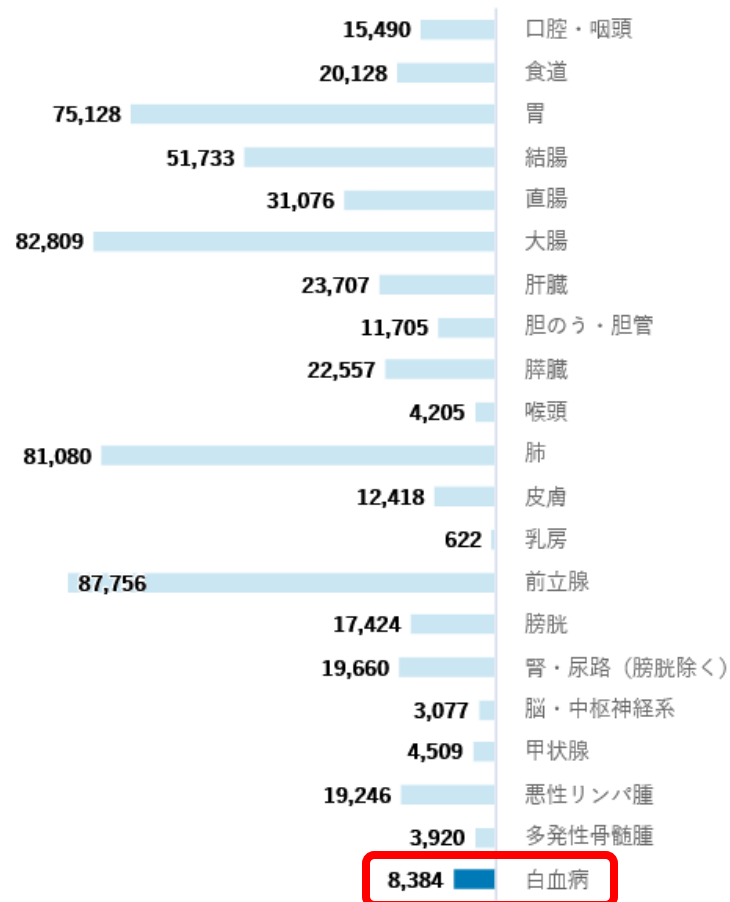


健康診断で異常を指摘

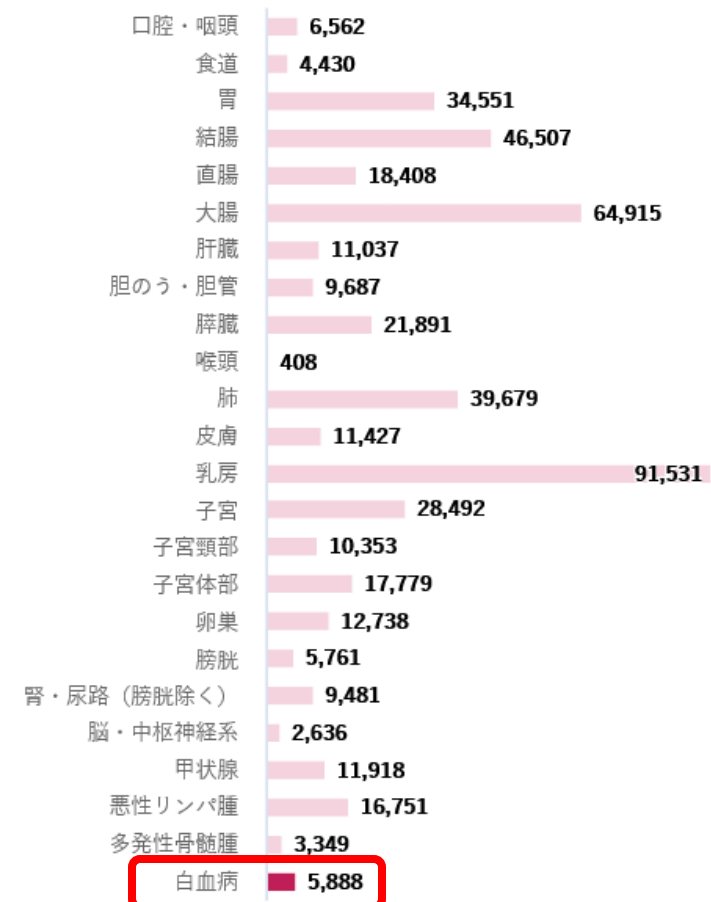


どれくらい多い病気？

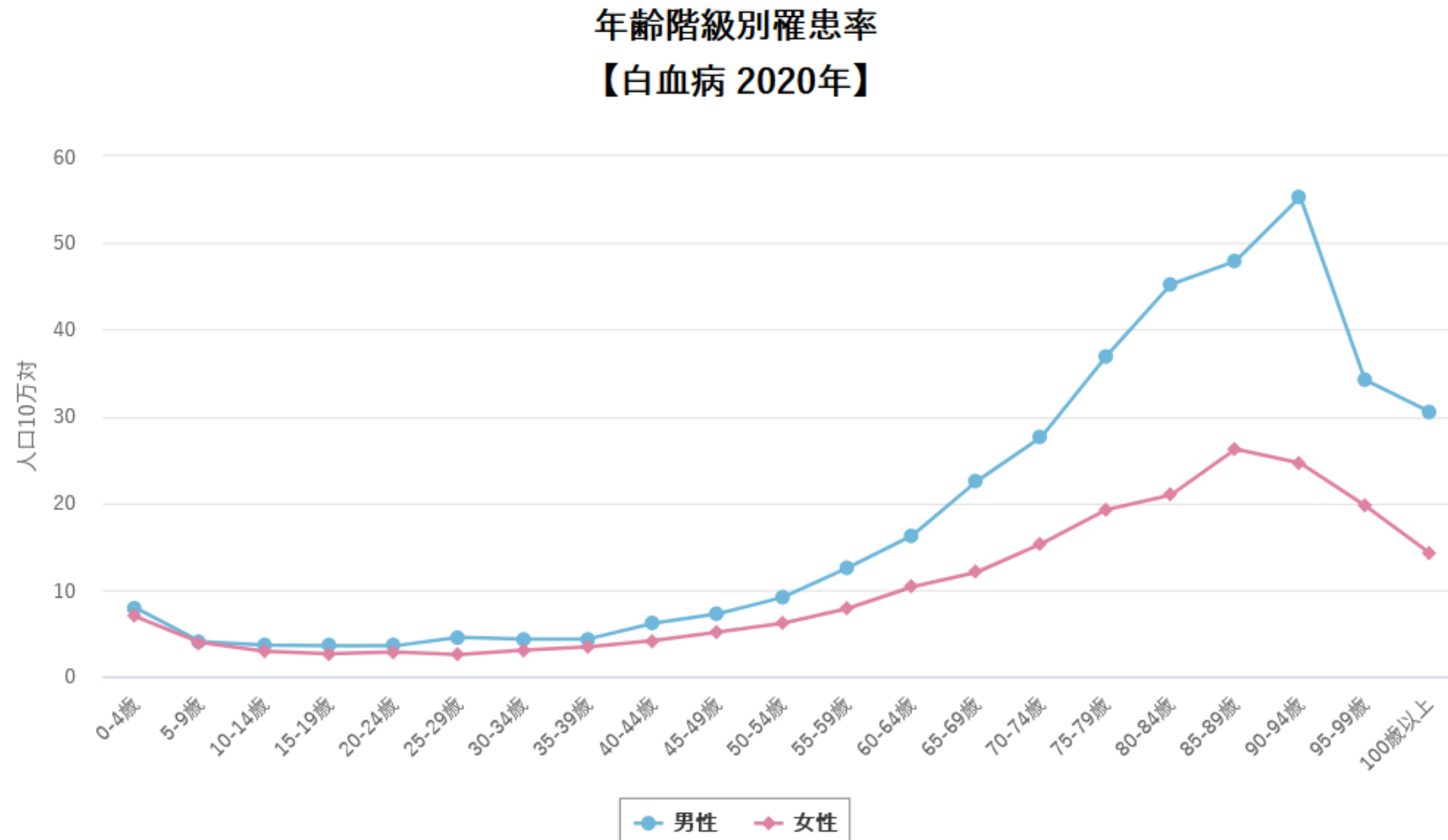
部位別がん罹患数
【男性 2020年】



部位別がん罹患数
【女性 2020年】



どれくらい多い病気？

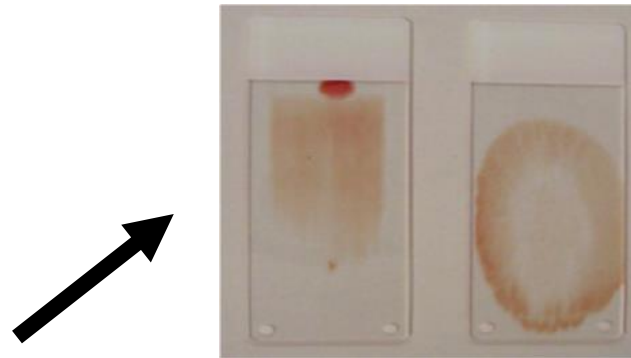


人口10万人あたりの罹患率は11.3 人（男性13.7 人、女性9.1 人）

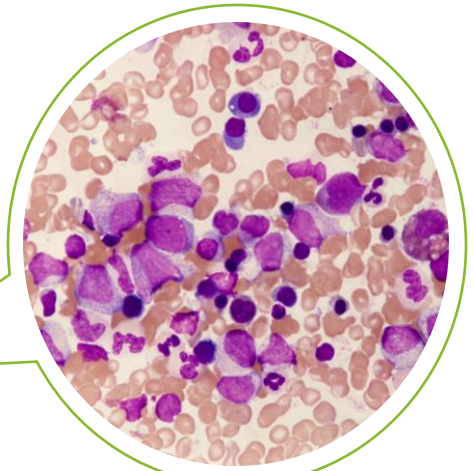
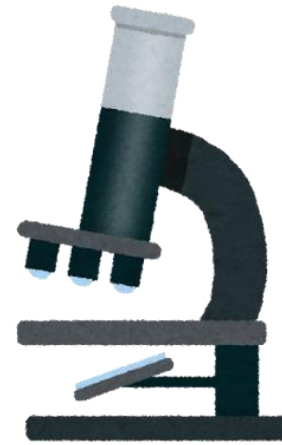
診断に必要な検査：骨髄検査



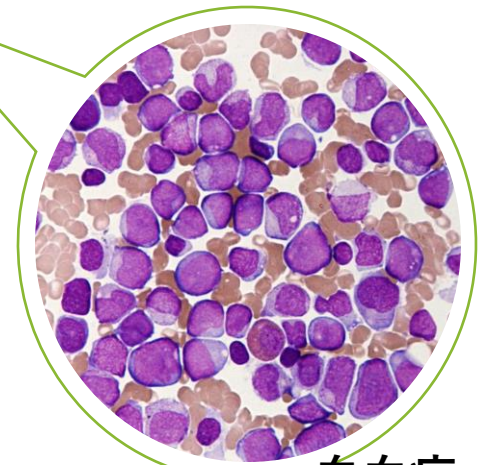
腸骨(骨盤の骨)から
局所麻酔で行います



薬品で染めて(染色)
スライドガラスで観察します



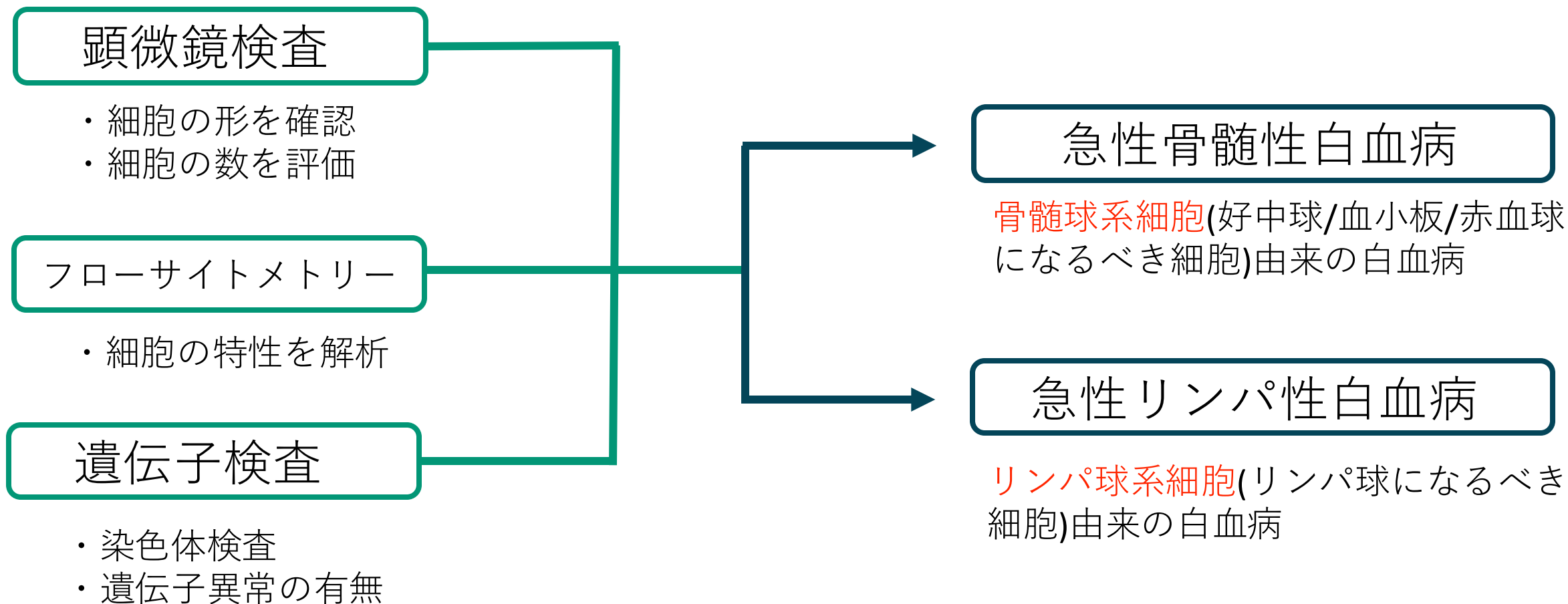
正常
(いろいろな細胞がいる)



白血病
(がん細胞ばかり)



骨髓検査で白血病を分類する



白血病を正しく分類し、適切な治療を選択することが重要！

急性白血病の治療

急性白血病の診断



年齢

からだの状態

持病や合併症の有無

白血病細胞の性質（染色体異常や遺伝子異常などの有無）

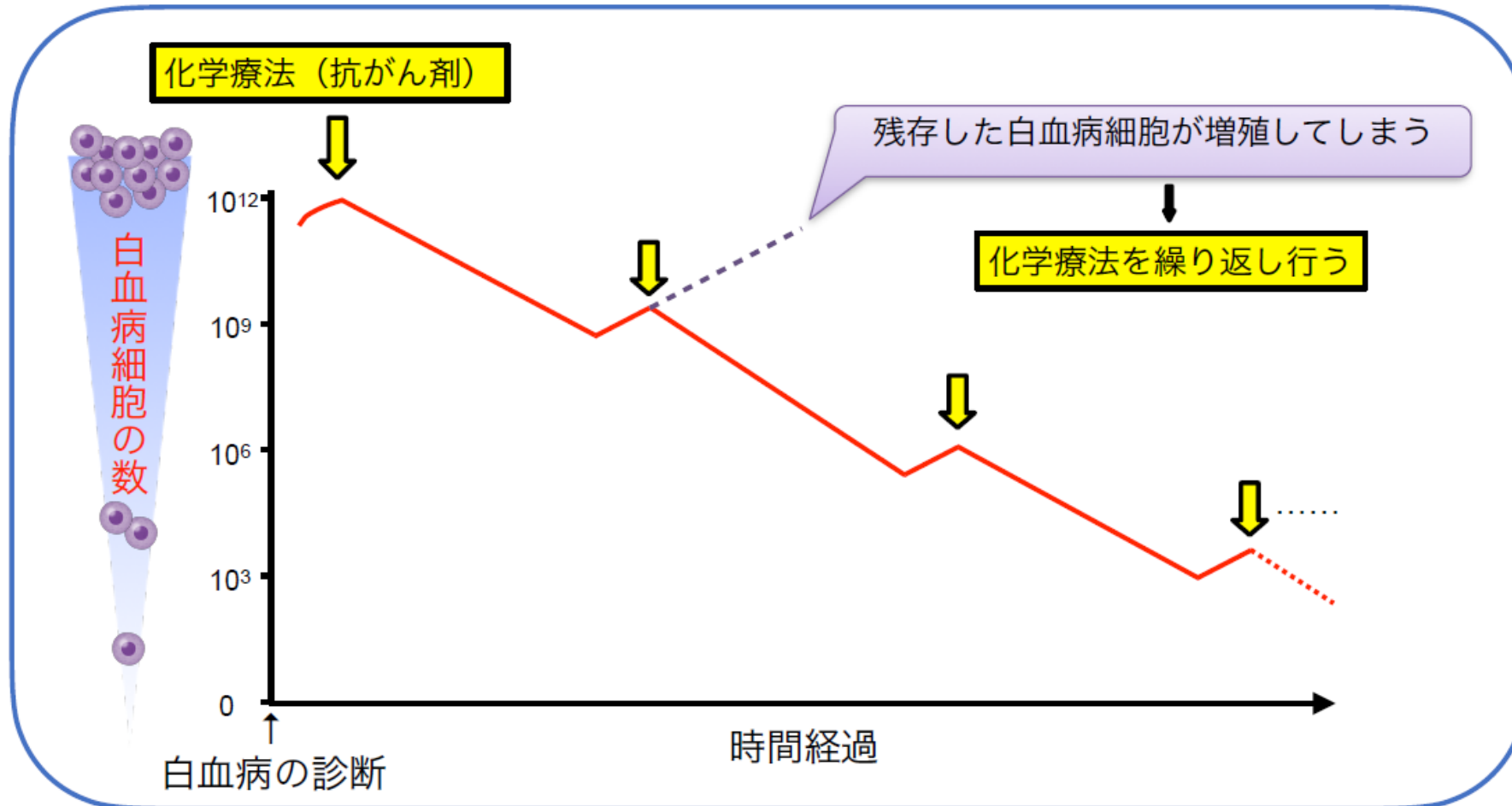
などを考慮



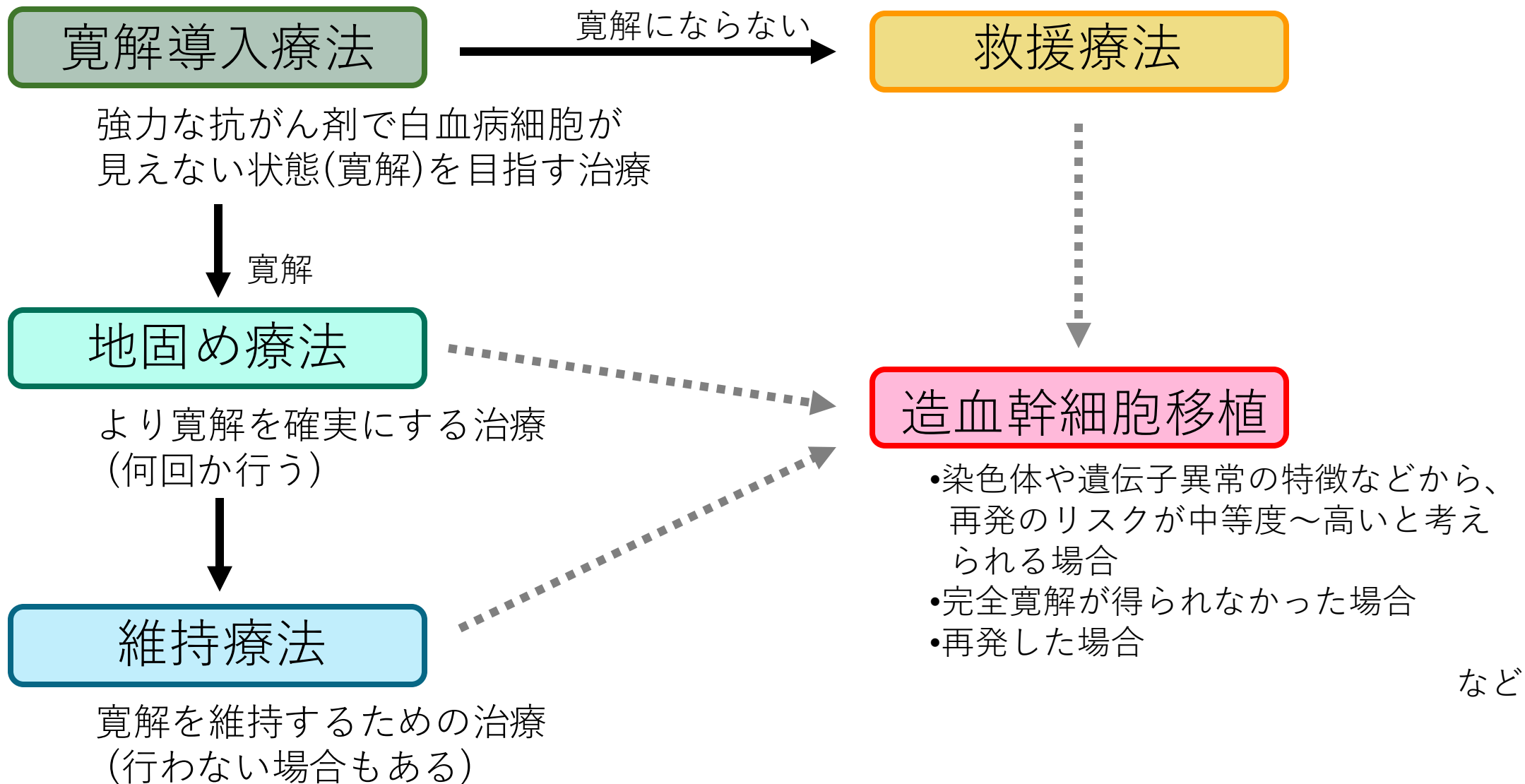
患者さんの状態に合わせた抗がん剤治療

急性白血病治療の考え方

白血病細胞は1つでも残っていると再び増殖します(再発)。
そのため、体内の白血病細胞をゼロにすることを目標に治療を行います。



急性白血病患者治療の大まかな流れ



治療：多剤併用化学療法

白血病の治療は、何種類かの作用機序の異なる抗がん剤を組み合わせで行う治療（**多剤併用化学療法**）が基本です。

組み合わせは白血病の種類、病気の状態によって異なります。

目的：

- 抗がん剤が効きにくい（治療抵抗性）白血病細胞が出てくる可能性を減らすため
- ひとつの抗がん剤を多量に使うと、特定の副作用だけが強く出てしまう危険性があるため

治療：分子標的治療薬

- **分子標的治療薬**とは、がん細胞に特異的に、あるいは正常な細胞に比べて過剰に発現する分子をターゲットとし、がん細胞の異常な分裂や増殖を抑えることを目的とした治療薬です。
- がんの種類によってターゲットとなる分子は異なります。
- 特定の分子の機能を調節するため、その分子を発現するがんにのみ有効です。（がんの種類によって有効な薬が異なります）

治療：免疫学的治療

免疫学的治療とは、従来の抗がん剤とは異なり、体内にあるがんを攻撃してくれる免疫細胞を利用してがん細胞を死滅させる治療です。

- **二重特異性抗体**（バイスペシフィック抗体）
T細胞（免疫細胞）とがん細胞とを結びつけることで、T細胞を活性化させ、がん細胞を攻撃しやすくさせる薬
- **CAR-T療法**
自分のT細胞を取り出して、がん細胞を攻撃するCAR(キメラ抗原受容体遺伝子)-T細胞に変えて増やしてから、自分の体に戻し、がんを攻撃させる治療

治療：造血幹細胞移植

- **造血幹細胞移植**とは、正常な血液細胞をつくることができなくなった患者さんに、骨髄や末梢血、さい帯（へその緒）から採取した造血幹細胞（血液の元になる細胞）を移植する治療です。
- 造血幹細胞移植を考慮する場合
 - ・ 染色体や遺伝子異常の特徴などから、予後のリスクが中程度～不良（再発の可能性が高い）と考えられる場合
 - ・ 寛解導入療法で完全寛解が得られなかった患者さん
 - ・ 再発した患者さん

など

治療：支持療法

- **支持療法**とは、がんそのものに伴う症状や、治療による副作用・合併症などによる症状を軽くするための治療です。

例)

- ・ 感染症に対する抗生物質の投与
- ・ 貧血や血小板減少に対する輸血
- ・ 吐き気・嘔吐に対する吐き気止め

など



治療：まとめ

- 急性白血病は、種類によって病気の進み方や抗がん剤の効果が異なるため、特徴を見極めて、適切な治療方法を選ぶ必要があります。（白血病の種類によって、治療方針が異なります）
- 体の状態を見ながら、抗がん剤の副作用に対応しつつ、可能な範囲で白血病細胞をできるだけ抑えることが重要です。
- 当院ではさまざまな治療法を積極的に組み込み、患者さんひとりひとりに合った最善の治療法を提供します。

浜の町病院における急性白血病の治療方針

- 国内外の最新のガイドライン・治療法に基づき、治癒を目指したベストの治療を提供します。
- 合併症のある方やご高齢の方など、標準的な治療を行うことが困難な方にも当科の経験・実績をもとに最善の治療を提供します。
- 大学病院や他施設との協力により、白血病関連遺伝子検査や治験の紹介・導入も積極的に行なっています。
- なによりも患者さんひとりひとりの全身状態、生活背景、おもいなどを尊重しながら治療を行います。